

## 豪雨災害は毎年酷く、続くと覚悟しよう！

天草に生まれ高校まで八代で過ごした。

TV で新萩原橋が洪水の様相を象徴的に映されています。

あの橋から 300m 下流に自宅がありました。周辺は全て水没したそうです。

被災者の皆さんの声を TV で聴き、思わず貰い泣きをします。

人吉には度々行きました。鍋屋さんが常宿でした。確か江戸時代からの老舗です。

女将さんが「苦難は覚悟している。再建を目指します」と、健気に答えておられました。

熊本大学の先生が「木根付近の岩石が粒化して、赤土に変わり土砂崩れになりやすい」と、話されていました。そういえば、天草の海の小さな岩礁の上には、松が植わっています。岩の小さな割れ目に、根が食い込んで見えます。

松は次第に大きく育ちます。割れ目を覗けば、割れ目、溝は大きくなっています。そこには土も積もっています。岩石が松の生命力に負けて、粒化して土になったのです。

1950 年頃まで、雑木林は木炭用に 15~20 年で伐切されていました。

以降、燃料は都市ガス、石油に代わり、雑木林は建築用杉・ヒノキの植林に代わりました。木炭時代は 15~20 年で切るの、根本への負荷も少なかった。

今では杉・ヒノキの需要が無く巨木になり、根本付近の基盤も脆いのです。

私は災害などまったくの素人ですが、子供の頃から自然に親しんだ感覚で、熊大の先生の見解は正しいと思いました。これから先、全国的に地滑り山崩れは多くなるでしょう。

この覚悟の上で、災害に打ち勝ちましょう。

川岸で球磨川が目の前に無ければ、鍋屋ではありませんね？

一階は駐車場や、オープンバーベキューエリアにして、2 階以上をレストラン、客室にしたら如何でしょうか？ 岸の大きな露天風呂は、基礎を丈夫にして、洪水の後、水が引けば容易に洗えるようにするのです。「洪水が来ても大丈夫！」の再建にしてほしいです。

40 年前、人吉の囲碁同好会の人達と仲良くさせていただきました。

現在は、アフリカなど荒漠とした国々を廻る仕事を天命にしています。

暑さと銃声の緊張で疲れ切った時、球磨川の清流と霧で霞んだ風景を思い出します。早朝コーランの声に合わせるように、ロバの悲しげな声が遠くから聞こえます。

私にとっては天草の蒼い海、球磨川の大きな清流、それに肥後人の意地張りが「負けてたまるか」の原点で、ここまで育てていただきました。

皆さんの意地張りを信じています。私も皆さんに負けぬように根性で前進します。